

蕨 工 ニュース

県立蕨崎工業高等学校
第 98 号

総務部
2012.11.16

生徒会役員決まる・応援団旗披露

甘利山登山強歩大会実施

やまなし県民文化祭入賞・保育体験実習

太鼓部高校芸術文化祭で優秀賞

新生徒会長決定

10月26日(金)に行われた生徒会役員選挙において、生徒会会長に三橋東奈さん(敷島中出身)、副会長には名取義紀君(若草中出身)と戸島佳菜子さん(蕨崎西中出身)、文化局長には原田朱羅君(山梨北中出身)、体育局長には李済天君(双葉中出身)が選出されました。今年度の役員選挙においては、副会長に4名が立候補するという意欲的な生徒が多く、立会演説会での各候補の演説に生徒たちも真剣に耳を傾けていました。先輩達の残した足跡に、新たな1ページを加えられるように頑張りたいと思います。



保育体験実習

10月18日~10月30日、1年生全クラスの「家庭基礎」の授業で保育体験実習をしました。私立蕨崎愛生幼稚園児と直接触れ合う体験を通じ、子どもをいとおしく思う気持ちや生命の尊さを理解し、将来親となる自覚を促すことを目的としています。同幼稚園の卒園生も本校に入学していて地域に根付いた交流となりつつあります。当日は、園児達の演技披露、ペアになり新聞紙を使った帽子製作、名札交換、本校生徒達による紙芝居、図書室での本の読み聞かせ等の交流を実施しました。園児の目線にたった生徒の優しい笑顔が見られました。NHKやUTYの取材が入り、テレビにも放映され、「当日、どうすれば子ども達とうまく関わられるか不安だった。」とインタビューで本音を漏らしたりする生徒もいましたが、他者との関わり方や進路決定のきっかけにもなった体験活動ができました。



甘利山強歩大会実施

11月1日に第45回甘利山強歩大会が開催されました。男子30km(標高差 1153m)、女子21km(標高差 853m)、制限時間は7時間です。今年は450人(昨年430人)が出走することができました。ここ数年では一番多い出走数です。また完走者も全体で90, 7%(昨年94%)と昨年に引き続き高い完走率になっています。学校全体にがんばれる生徒が増えてきた証拠だと思います。その中でも、男子優勝の大柴結人君(3-3)は序盤からハイペースで走り、2連覇を達成しました。2時間17分という素晴らしい記録を作りました。また女子でも小山莉穂さん(3-3)が並外れた体力で3連覇という偉業を達成しました。制限時間オーバーとなり、山頂でリタイアとなった鈴木裕也君(3-1)は「最後なのでどうしても完走したかった」と悔しそうでした。それでも秋の紅葉の中を仲間と一生懸命下山する姿は光り輝いていました。この経験は一生の財産になると思います。来年も甘利山がんばろう。



URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>
e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp

応援団旗披露



50周年記念事業の一環として応援団旗を新調しました。お披露目は11月21日に行われる50周年記念式典で行われます。葦崎工業高校応援団は各種壮行会を始め、野球応援や山梨県高等学校応援連盟が行っている応援団発表会にも参加しています。今年も12月22日(土)に第5回応援団発表会がコラニー文化ホールで開催が予定されており、本校応援団も参加します。発表会では50周年記念事業として復活させた母校賛歌、応援歌も披露します。現在、活動している団員は23人と大きな組織になり、生徒一人ひとりが学校を盛り上げるために日々精進して練習をしています。これからも「新応援団旗」と共に母校の為に応援活動を行っていきたいと思います。

準やまなし県民文化祭受賞



やまなし県民文化祭写真部門が10月30日～11月5日まで山梨県立美術館で開催されました。出品点数は全体で765作品、本校写真部も12名が学生の部に出品しました。その中から準やまなし県民文化祭賞に丸茂徳章君の作品が見事選ばれました。この賞は全作品の中から2番目の優秀作品です。その他にも5名の生徒が入選し、4名が秀作で美術館に展示されました。11月20日より市川三郷町のひらしお源氏かんの館で展示されます。是非作品の見学にお越し下さい。

高校芸術文化祭郷土芸能部門で優秀賞

11月4日、太鼓部は第33回山梨県高等学校芸術文化祭郷土芸能部門に参加しました。この日のために土日を含め、毎日遅くまで練習に励んできました。私たちは「自分たちが納得のいく演奏ができれば結果は自ずとついてくる」という考えの下、結果にこだわるのではなく「質」にこだわる演奏ができるよう練習に取り組みました。

本番では、緊張の中にも落ち着きを持ってステージに立つことができました。たった10分の演奏時間の中でいかに自分たちのカラーを出し、今までの練習成果を発揮できるかがポイントとなる大会でした。部員一人ひとりの気持ちが合わさり気迫溢れる演奏ができました、太鼓の深い音色・余韻に包まれ、見ている人の心に残る演奏ができたと思います。演奏が終わった時、達成感から自然と部員全員が笑顔になっていました。また、会場で応援して下さいった多くの方の目に感動の熱い涙が流れているのを今でも鮮明に覚えています。

結果は本当に僅差で優秀賞と、全国総文祭への切符を掴むことはできませんでしたが、この大会を通して「結果を求めるのではなくその過程をいかに意味ある物にするか」そして「頑張ることのすばらしさ」「音楽を通して感動を作れるすばらしさや可能性」を改めて学ぶ事ができました。これからも私たちの演奏を多くの人に聞いていただけるよう、現状の成果に満足することなく一生懸命活動をしていきたいと思います。そして来年こそは全国のステージに立ちたいと思います。たくさんのご声援本当にありがとうございました。

